

月例報告書（2月）

マカオ大学（マカオ）へ留学中
大柳亜美

2月のマカオでは中華圏で重要な節目である旧正月がありました。そのため、マカオ大学では2月10日から26日まで旧正月休みとなり、ほとんどのマカオや中国出身の学生は帰省して家族と過ごします。私がマカオに来たのはちょうど1月2日で正月の時期でしたが、街や学校にはクリスマス風の飾りが多く残っていたのに対し、旧正月が近づくと至る所で旧正月の飾りやオブジェが目立ち始めました。このことから、中華圏の人にとって旧正月は中華圏の人々にとって非常に重要な物だということを実感しました。



私は旧正月中、2月15～17日の間、香港へ一人で旅行に出かけました。香港とマカオは近く、フェリーだと1時間ほどで香港に行くことができます。香港とマカオは近いため全体的な雰囲気は似ていましたが、香港は主な公共交通機関がバスしかないマカオと比べてバスと地下鉄の両方が使えるので移動が分かり易くて便利でした。香港旅行ではヴィクトリアパークやスタンレーマーケットなど様々な観光スポットを訪れましたが、一番印象に残っているのは黄大仙という有名な寺です。旧正月当日である16日の午前中に行ったため、初詣をするために大勢の人が集まっていました。まず、黄大仙の地下鉄を出ると出口から何人もの売り子の方がすごい勢いで線香を駅から出てくる人に見せて売っていました。そこでよく分からないまま線香を買い、30分ほど並んだ後で入り口へ入ることができました。わずか30分でしたが非常に込んでいて満員電車のように身動きも取れない状態で、なおかつとても気温が高かったためとても長く感じました。線香の使い方については何も知りませんが、ほぼ全員が線香を持っていたため、それに倣いました。まず線香に火を付けるための蠟燭の入った容器の中に線香を入れ、火を灯して松明の様にして寺の前まで持って行き、供えました。周りの香港人を見ると老若男女が熱心に祈っており、日本同様に仏教への信心深さが見受けられました。



マカオに帰ると、旧正月を迎えて街では正月ムードが高まっていました。特に中心市街地やセナド広場周辺では旅行者が大勢おり、人の流れを管理するために警察官が横断歩道など至る所にいるため、少し緊張感が感じられました。また、レストランなどが並ぶ商店街で笛や太鼓に合わせて獅子舞が練り歩くパフォーマンスが行われ、爆竹も鳴らされていたところを見て驚きました。日本にも獅子舞のパフォーマンスはありますがステージや自宅訪問ではなく道端でそのようなことをすることはなく、マカオならではの文化だと感じました。また、獅子舞の色がピンク色である所も面白いと思いました。



他にはマカオのヤオハンというデパートに行きました。そこではなぜか日本の熊本物産展が行われていて、クマモンというゆるキャラの着ぐるみがキャンペーンを行っていた事に驚きました。マカオでは多くの場所で色々な日本の製品が売られており、日本の製品が人気で身近だということが分かります。例えば、日本食レストランも多く、ユニクロやダイソー、セブンイレブンなどの日本のチェーン店も展開しています。クマモンも人気のようで、多くの人が立ち止まって写真を撮ったりしていました。ヤオハンは日本のデパートと同じような造りで、階ごとに化粧品や婦人服、電化製品などに分けられています。食品コーナーは地下ではなく7階にあり、そこで物産展が行われていました。そこでは、熊本のコーナーが設置してあり、熊本の菓子やラーメンなど様々な熊本の名物が売られており、他のお客も強い興味を持って真剣に選んでいました。日本人としてはマカオでここまで日本や日本の製品が人気だということを知らなかったのも、意外に思いました。しかし、日本の製品が海外で評価されていることは誇りに思うべきだと思いました。旧正月明けからはまた本格的に授業やサークル活動が始まるため気を引き締めて頑張りたいです。

